

県外派遣報告書

審判員名	北島寛臣	所属	高体連
大会名	第54回全国高体連審判研修会及び平成25年度全国高等学校総合体育大会		
期間	平成25年7月25日～7月31日		
会場	べっぷアリーナ、ダイハツ九州アリーナ他		
スケジュール			
期日	内容	場所	
7月25日(木)	第54回全国高体連審判研修会開講式	別府市中央公民館	
7月26日(金)	班別トレーニング、モデルゲーム、講義	べっぷアリーナ	
7月27日(土)	班別トレーニング、モデルゲーム、閉講式	ダイハツ九州アリーナ、べっぷアリーナ	
7月28日(日)	審判会議	亀の井ホテル	
7月29日(月)	1回戦 城北(徳島)－川内(鹿児島)	べっぷアリーナ	
7月30日(火)	2回戦 大分豊府(大分)－明星学園(東京)	杵築市文化体育館	
7月31日(水)	3回戦 金沢(石川)－大阪学院(大阪)	べっぷアリーナ	
研修会開講式 内容			
<p>今年度より審判研修会が、インターハイの審判選考会を兼ねることが明文化された。開講式後の研修会のはじめに研修会講師の佐藤誠氏より「信頼される判定をするため～ルール、マニュアルの正しい理解と運用～」というテーマのもと大会についての心構えについてお話をいただいた。特に印象に残ったのは、われわれ審判員は常にベストコンディションでいる、という点でした。改めて自己管理の重要性を再認識しました。また、インターハイに派遣されている審判員としての考え方、言動について、判定力向上のために考えなければならないことについてお話をいただいた。講義後、例年は2日目のモデルゲーム終了後に行われている班別ミーティングを行った。それぞれの班ごとに自己紹介また、課題等について話し合われた。</p>			
研修会トレーニング			
1日目	期日	平成25年7月26日(金)	会場
			べっぷアリーナ
トレーニング内容		講師 石黒 勉氏 清水幹治氏	
<p>①アップ ②リードからトレイルの動き 空動きなので自分でさまざまな状況でイメージして行う。 ③スクエアパスから3:1, 3:2 切り替え、二人の視野の分担、協力 ④2:2 二人の協力、パスをした後の動きの確認</p>		<p>⑤ハーフコート4:4(約束練習) 1プレイごとにパートナーと確認する。 オフボールの確認 アンテナの張り方 相手がどこを見ているか確認する。</p> <p>これでも4:4。試合は5:5である。危機感を感じながら判定をしていくことが大事であり、二人で必ず協力すること。</p>	

2日目	期 日	平成25年7月27日(土)	会場	ダイハツ九州アリーナ
トレーニング内容		講師 石黒 勉氏 清水幹治氏		
①アップ ②ハーフコート3:3(約束練習) 常に次のことを感じる。 動きながらプレイを判定しない。 ③ハーフコート4:4(フリー) 二人で協力して判定をすること。 判定していることを伝えるために正しい ポジションいいポジションに移動する。		④4:4ゲーム形式で1往復 相手レフリーとの協力。 相手のレフリーがどこにいてどこを見ているのか 確認する。二人がどう協力するか考える。		
研修会モデルゲーム				
担当試合	期 日	平成25年7月27日(土)	男子 (女子)	
	対戦カード	宇都宮中央女子(栃木) VS 湯沢翔北(秋田)	(主審)	副審
	相手審判	古島尚弥氏(大阪)		
ミーティング内容		主任 石黒 勉氏		
<p>4Qでの交代選手が出てきたときの対応をしっかりとするべきだった。それまでの基準とチャンネルを変えて対応しなければならないところがあった。ゲームの最後の場面で終了と同時にシュートファールがあったのだが、試合の終わらせ方としてはっきりと示すべきだった。</p> <p>プレイの中でどういうことがあったか知っておくことは必要だが、相手の見るべき責任範囲に笛を鳴らすことにより、どちらのレフリーも信頼されなくなるということを知っておかなくてはならない。</p> <p>ベンチの対応について。コーチが選手に対してかもしれないが、判定のことについて大声で言っている。その場合、ベンチに一声掛けるなどの対応が必要である。</p>				
A、B班合同講義				
	期 日	平成25年7月26日(金)	会場	べっぶアリーナ
講義内容		講師 清水幹治氏		
<p>「信頼される判定をするため」～ルールマニュアルの正しい理解と適用～というテーマで清水氏に講義をいただいた。信頼されるレフリーとは何か？から始まり、オン・ザ・コートで注意すべきことを6点に分け細かく説明された。最後にまとめとしてあった、ルール、マニュアルに書いてあるからその通りに動くのではなく、なぜそのようになっているかを理解することが大切であるということを確認した。また、相手レフリーとの協力や、共通理解をもって試合に臨むことの重要性を改めて感じた。</p>				
インターハイ1回戦				
担当試合	期 日	平成25年7月29日(月)	(男子) 女子	会場:べっぶアリーナ
	対戦カード	城北(徳島) VS 川内(鹿児島)	(主審)	副審
	相手審判	中澤久馬氏(京都)		
ミーティング内容		主任 吉橋雅一氏		
<p>1試合安定して判定することができていた。ただし、無理に相手の目の前を判定しに行かなくていいケースがあった。そこは無理するのではなく、相手に任せておいていい、と反省を受けた。</p> <p>1回戦ということもあり緊張して臨んだが、やはり、プレイを追っかけすぎてしまい、相手の目の前まで判定してしまうケースが修正できなかった。相手との協力という点で反省点が残った。</p>				

インターハイ2回戦

担当試合	期 日	平成25年7月30日(火)	男子 <u>(女子)</u>	会場:杵築市文化体育館
	対戦カード	大分豊府(大分)	VS	明星学園(東京)
	相手審判	植田浩司氏(福島)		<u>(主審)</u> 副審

ミーティング内容 主任 安元正彦 氏

前半から点差がついてしまった試合であった。しかし、地元のチームということで最後まで必死に選手たちはがんばっていた。ミーティングでは前半は無理することなくいっており、後半もその調子で判定していればよかったといわれた。後半は笛の数が多くなり、違和感が残る試合となった。自分自身としては後半控えの選手が出場したときに神経質になり無理にいつってしまったと思う。改めてゲームコントロールの難しさを感じた。

インターハイ3回戦

担当試合	期 日	平成25年7月31日(水)	<u>(男子)</u> 女子	
	対戦カード	金沢(石川)	VS	大阪学院(大阪)
	相手審判	大谷英紀氏(本部)		主審 <u>(副審)</u>

ミーティング内容 主任 松本 究氏

試合内容は金沢高校が最初突き放したが、大阪学院がインサイドを中心に追い上げ接戦となる非常にいい試合であった。最後に一点を争う試合だけあり一つの判定の重みを感じながらゲームを行った。ケースについていくつかの指摘を受けた。今大会自分自身最後の試合だったこともあり、研修会で得たものを生かそうと考えてはいたが、こういう場で意識してやることは難しく日頃の取り組み方の大事さを感じた。

全体の感想

今年7回目のインターハイの派遣となった。毎年毎年、これまでやってきたことの確認であったり、新しいことの発見をすることができている。自分自身の課題として、相手の責任範囲まで判定してしまうことや、相手審判員との協力という面はまだまだ勉強しなくてはならないと感じた。今回のインターハイの成果を今後の審判活動につなげ、より信頼される審判になりたいと思う。

最後にこの場を借りてインターハイの間お世話になった大分県バスケットボール協会、大分県高体連の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。